

令和5年度(2023年度)金沢大学法科大学院入学試験問題
【B日程入試】法律専門科目試験

刑法 出題の意図

問題1は、刑法各論に関する重要な概念のごく基礎的な理解を問うものである。事例を設定させるのは、適切な事例設定は正しい知識の裏打ちを測るために有用だからである。

(1)は、各論の講義の初期に必ず学習する胎児性致死傷に関する基本的な理解を問うものである。昭和期の公害事件を契機に用いられるようになったが、近時では交通事故のケースでも適用されることがあり、決して古い論点ではない。どのような事例かが適切に記述されており、熊本水俣病事件(最決昭和63年2月29日刑集42巻2号314頁)の判示の骨子が示されていることを求めたい。そのうえで、設定した事例が適切に解決されていることが必要である。(2)は、近時司法試験の論文式試験でも出題された盗品等関与罪の基本原則である保護法益に関する基本的な理解を問うものである。被害者の追求権侵害という要素を基本に据えつつそれだけでは説明が付けにくい部分につきどのような付加的な保護法益が存在するかの適切な理解を示すことが必要である。

問題2は、刑法総論上の典型論点である幫助の因果関係を問う事例問題であるが、その前提として共同正犯と幫助犯の区別も問題となる。問題文掲記の事情からはXは幫助犯となることが見込まれるが、そのことを正しく論証したうえで、共犯の処罰根拠との関係で「使用されなかった幫助行為」の可罰性をどのように評価するか、解答者の立場の論理整合性を問うものである。